

令和2年度

(第9事業年度)

事業報告

令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで

「令和2年度事業報告」目次

要 旨	1
《事業活動》	
ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業1）	
1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営	
（1）ソルフェージュに関する指導等および各種楽器、声楽等の実技指導	
【ソルフェージュ、器楽及び声楽のレッスン】	2、3
【合奏のレッスン（室内合奏団のレッスン）】	3
【大人のコーラス“レ・グルヌイユ”のレッスン】	3
【子どものコーラス“レ・テタール”のレッスン】	3
【ソルフェージュ&ABC”のレッスン】	3
【リコーダーアンサンブルのレッスン】	4
【春のミュージックキャンプ】	4
【夏季合宿】	4
【楽しくアンサンブル】	4
【音遊びするプレソルフェージュ“ウフ”】	4
【大人の音楽の時間】	5
（2）ソルフェージュに関する研究、指導者育成及びその普及	
① 通常プロジェクト	5
【ソルフェージュスクール演奏会】	5
【前期おさらい会】【後期おさらい会】	5
【研究会】	5
【試演会】	6
【講師によるコンサート】	6
【海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流】	6
② 地域プロジェクト	6
（3）ソーシャルメディアの活用、資料収集、出版物刊行等「広報」の充実	6、7
2. 音楽ホール、練習室の貸与	8
3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催	8
《管理部門》	
1. 法人としての諸会議	9、10
2. 公益財団法人の情報公開	10
3. 業務執行体制の強化	10

要 旨

今年度は、「ソルフェージュスクールの音楽教育」を幅広い世代へ浸透させるため、レッスン現場の見学、参加等により楽しい音楽の実体験の機会を増やす方を強化し、とくに、幼児期に楽しく音楽に接することで心の成長を促すために、未就学児が音遊びするプレソルフェージュ「ウフ」、子どものコーラスクラス「レ・テタール」、ソルフェージュと英語の融合クラス「ソルフェージュ&ABC」の充実を図り、また「大人の音楽の時間」講座で音楽を楽しむ体験を次世代へ継承できる大人世代を増やしていく計画であった。

しかし、年初からはじまったコロナウイルスの感染拡大に伴い、2度の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出があったので、厳重な感染予防対策をして、対面及びオンラインレッスンを導入したが、指導内容の変更や時間の縮小、行事の中止により計画していた成果は十分には得られなかった。ただ、「ウフ」へ参加する未就学児向けに作成した YouTube 動画をホームページで公開し、各自宅で楽しんでもらったことは一つの新しい貴重な成果であった。ホームページ、Facebook 等の web サイトを広報活動だけではなく、音楽教育の有効な手段として活用することを今後も考えて行きたい。

令和 3 年度に予定している創立 60 周年記念演奏会の準備を進めていく過程で、ゲスト演奏者の招聘も会場予約もコロナ禍に阻まれ、大幅な企画変更に伴い令和 3 年度には実施できないことが確定した。しかし、この逆境を好機と捉えて創立 60 周年記念演奏会の新企画を次年度に繰り越して展開していく予定である。

財政的には、休講が約 2 ヶ月続いたこと、いくつかの行事が中止となったこと及びオンラインレッスン態勢が必要となったことに加え、コロナ禍で行動自粛を余儀なくされ休室したり、新規入室を控える生徒が増えたこともあり、事業収入が大きく減収となった。東京都のコロナ特別持続化給付金と厚生労働省の雇用安定助成金を得て、減収分、休業手当及びコロナ感染予防備品代の補填に充てた。しかし、コロナ禍の役員会については開催日の大幅な延期と開催方法の変更（対面からオンライン会議へ）があり、オンライン会議では事前の会議資料の印刷・送付にかかる負担が予想外に大きかった。またオーバーホールする必要がある 3 階ホールのスタインウェイグランドピアノの修繕についてもコロナ禍での資金調達は困難だったので、令和 3 年度に延期せざるを得なかった等々、これまでにない困難な状況に直面し運営が甚だ困難であった。

《事業活動》

ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業1）

1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営

（1）ソルフェージュに関する指導等及び各種器楽、声楽等の実技指導

ソルフェージュの研究促進及び指導者育成を目的として研究者、指導者及びこれから研究、指導を目指す者、また関心のある一般を対象とした研究発表会、講習会、音楽会等を開催し、いずれも一般に公開する予定であった。

当法人が開発したソルフェージュジェットやリズムカード及び以前フランスで使われていた教本を翻訳・復元した教材等を用い、ソルフェージュスクールカリキュラムに沿って、具体的にリズム・拍・音程を習得させ、読譜力・視唱力・聴音力を身に付けさせ、器楽、声楽等の実技指導及び年数回の特別講習会を加え、音楽文化の理解を深めさせつつ実技を習得させるための指導は、コロナ禍のため、通常年通りではなかったができる限りの工夫をして進めた。

通常受講費は別途入室案内に公開しているが、コロナ禍での特別なレッスン形態に合わせた受講費を設定した。

なお、これら事業内容の具体的な実施の詳細については、業務会議、運営委員会等で決定した。

【ソルフェージュ、器楽及び声楽のレッスン】 一般対象

令和2年4月7日（火）に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され5月6日（水）までの期限とされたが、5月4日（月）にその期間が5月31日（日）に延長された。その後5月25日（月）に解除されたが、レッスンをすぐにはじめることはできなかった。そのため、4月7日（火）から6月1日（月）の期間は休校とし、その期間のうち5月7日から6月1日までは感染予防対策を講じて生徒の状況と希望を伺い、少人数の希望者のみ対面とオンラインのレッスンを行った。6月2日（火）から開校し、7月22日（水）を1学期終了日とした。コロナ感染予防対策を講じた上で生徒の状況と希望を伺い、少人数の希望者のみ対面とオンライン（対面の半分の時間で半分の授業料）でレッスンを実施した。

1学期 4月7日（火）～6月1日（月） 休校

6月2日（火）～7月22日（水） 開校

2学期は、マスク着用、消毒、換気、ソーシャルディスタンスを守りながら、通常通りの対面レッスンとした。一部希望者にはオンラインレッスンを行った。

2学期 9月1日（火）～12月22日（火） 開校

令和3年1月8日（金）に2月7日（日）を期限とした2回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され、2月2日（火）に3月7日（日）まで期限延長、3月5日（金）にはさらに3月21日（日）まで期限が延長された。そのため、3学期は1月12日（火）に開校したが、コロナ感染予防対策を講じた上で対面とオンラインを取り混ぜたレッスンをを行うこととなった。

3学期 令和3年1月12日（火）～3月18日（木） 開校

レッスンの曜日、時間 及びレッスン形態については、生徒と講師が相談して決めた。週1回のレッスンを原則としたが、年間合計でソルフェージュ40回、器楽及び声楽のレッスン41回という通常の予定を達成することはできなかった。

【合奏のレッスン（室内合奏団のレッスン）】 一般対象

成人受講生対象で、月2回の日曜日、弦楽合奏のレッスンと小グループによる室内楽のレッスンを行ったが、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、4月と5月のレッスンは休止とした。6月以降はコロナ感染予防対策を講じた上で対面レッスンを実施した。年間合計で予定していた22回を達成することはできなかった。

【大人のコーラス“レ・グルヌイユ”のレッスン】 一般対象

1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、6月より日程を調整しながらオンラインレッスンを行い、11月には対面とオンラインを併用して行ったが、2回目の緊急事態宣言発出によりオンラインに戻し、3月は対面とオンラインを併用して行った。年10回の予定は達成できなかった。

【子どものコーラス“レ・テタール”のレッスン】 一般対象

小学生から高校生対象で月1回日曜日に行い、年10回を予定していたが、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、5月よりソルフェージュ&ABCと合同でのオンラインレッスンを行い、11月には対面とオンラインを併用して行ったが、2回目の緊急事態宣言発出によりオンラインに戻し、そのままオンラインレッスンとなった。年10回の予定は達成できなかった。

【“ソルフェージュ & ABC”のレッスン】 一般対象

小学校低学年対象のソルフェージュと英語のコラボで、月1回日曜日に行い、年10回を予定していたが、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、5月よりレ・テタールと合同でのオンラインレッスンを行い、11月には対面とオンラインを併用して行ったが、2回目の緊急事態宣言発出によりオンラインに戻し、そのままオンラインレッスンとなった。年10回の予定は達成できなかった。

【リコーダーアンサンブルのレッスン】 一般対象

ソプラノ、アルト、テナー、バス等のリコーダーによる三重奏等々のアンサンブルレッスン。成人受講生対象で月1回を予定していたが、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、4月から6月の間は休講とした。9月からは日程を調整しながら対面レッスンを実施したが、1月の2回目の緊急事態宣言により1月から3月は、また休講を余儀なくされた。

【春のミュージックキャンプ】 一般対象

普段の個人レッスンではなかなか取り組めないアンサンブルの経験を積むための2日間の講座。受講生の組合せを工夫し、様々なグループで用意された曲を勉強し、2日目の最後に発表会コンサートを開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により3月7日（土）に全国一斉に休校要請が発令されたために、当スクールは令和1年度の3学期の終了日まで休講とした。そのため、春休み中の3月28日（土）と29日（日）に予定していた春のミュージックキャンプも中止せざるを得なかった。

【夏季合宿】 当スクール受講生及び一般対象

8月20日（木）～23日（日）の4日間に開催を予定していた夏季合宿は、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、準備ができず、先の見通しが立たず、また4日間の合宿生活はコロナ禍ではリスクがあるため、中止とした。

【楽しくアンサンブル】 一般対象

7月19日（日）開催予定だった夏季の楽しくアンサンブルは、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、準備ができず、先の見通しが立たなかったため、中止とした。

11月23日（祝日）に予定していた冬季の楽しくアンサンブルは規模を縮小し、コロナ感染予防対策を講じた上で午後のみで実施した。本来の内容ではなかったが、曲目・組合せ等を工夫したアンサンブルを指導することができた。

【音遊びするプレソルフェージュ “ウフ”】 一般対象

0歳児から5歳児とその保護者を対象として、3階ホールで原則として月1回日曜日に行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症リスク回避のため、1度も開講することができなかった。その代わりとして、4月から7月まで4本のYouTube動画を配信し、自宅で楽しんでもらった。

【大人の音楽の時間】 一般成人対象

ソルフェージュスクールが長年培ってきた教材を基にして、大人が楽しく無理なく音楽の基礎を学び身につけ、生きた音楽の世界を体験できる時間とし、小編成の室内楽と共に、易しいメロディーで合唱やアンサンブルを楽しめるようになることを最終目標と設定したが、コロナ禍においては実現させることができなかった。

(2) ソルフェージュに関する研究、指導者育成及びその普及

① 通常プロジェクト

【ソルフェージュスクール演奏会】

ソルフェージュスクールの受講生全員が、リトミック、室内楽、器楽合奏、弦楽合奏、合唱等のいずれかに出演する、外部のホールで催す年1回の定期演奏会。来場者がスクールの教育を大観し、ソルフェージュの教育を理解する重要な機会として位置づけているが、6月28日(日)に日本橋公会堂で実施予定していた演奏会は、1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、会場が閉館となったため、中止とした。

【前期おさらい会 10月25日(日)当法人ホール】

【後期おさらい会 令和3年3月20日(土・祝)当法人ホール】

10月と3月の前後期に分けて開く発表会。コロナ禍のため、生徒、保護者、教師いずれの参加人数も縮小し、十分対策を行っての開催となった。前期は出演人数が多かったため、2部制とした。規模は縮小となったが、器楽、声楽を学んでいる受講生(主に個人レッスン)は少なくとも年1回は人前で演奏披露することで、普段とは違う学習と練習を体験する大切な場となり、また生徒同士、父兄、教師にとっては個人レッスンの進捗状況を知る良い機会となった。

【研究会 令和3年2月10日 オンライン会】

ソルフェージュ、器楽の教授方法、教本の使い方や生徒への対応の仕方など、時々テーマを設けて講師一同が意見の交換をしてレッスンの質の向上を目指すための研究会だが、9月は実施できず、2月に、「ソルフェージュスクール演奏会のためにどんなことができるか？」を話し合う内容で開催した。コロナ禍の中でのソルフェージュスクール演奏会は、大きく制限を受けるので(密を避ける、歌はできない等)、その中で発表できることは何かをオンラインにて活発に話し合い、アイデアを出し合った。

【試演会】

講師有志等の独奏或いはアンサンブルによる演奏を聴き合い、日頃教える立場にある者がお互いに具体例をもって意見を述べ合うことで良い研修の機会としたかったが、コロナ禍で日程調整が難しく実施できなかった。

【講師によるコンサート】

春と12月に開く主に講師が演奏する演奏会で、「音楽は、ソロだけではなく合奏の楽しさを味わい、音楽の喜びを得る」というソルフェージュスクールの目標のひとつを、ソルフェージュスクールの講師が自らの演奏を通してより多くの方へ伝えるためのコンサートである。

< 春のコンサート >

3月7日(土)からの休校要請により当スクールも休講としたため、春のコンサートの準備ができず、4月7日(火)に1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されたために実施を断念した。

< クリスマスコンサート 12月20日(日) 当法人ホール(有料) >

コロナ禍が続く中、入場者数を制限して開催した。困難な環境であるからこそ音楽を楽しみ、心を癒やすことが大事であることを演奏・聴衆の全員が実感した演奏会であった。

【海外の専門家(ソルフェージュ研究者等)との国際交流】 一般対象 (原則として有料)

夏季あるいは冬季に、ソルフェージュスクールで学び、現在アメリカで活躍中のヴァイオリニスト・亀井由紀子氏を講師として招き、特別講習会を開く予定であったが、コロナ禍で海外往来が制限され、日本国内の感染拡大状況も予断を許さない状況だったため、実施を断念した。

② 地域プロジェクト

児童及び高齢者を対象とした地域プロジェクトへ協力(講師派遣等)を行なっている。
昨年度に引き続き、12月9日に豊島区のNPO法人富士見台ひろば主催のクリスマスコンサートへの協力を行なった。

(3) ソーシャルメディアの活用、資料収集、出版物刊行等広報の充実

ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜、楽器を購入すると共にソルフェージュの普及のため研究成果及び教育内容などの出版を検討し、また授業、事業活動及び法人運営資料等についてはホームページに掲載した。ホームページの内容充実と更新を継続し、タイムリーな情報発信をFacebook等で行った。

① Facebook 等の SNS の活用

ホームページとは別に、Facebook 等の SNS を連携させて情報発信をすることにより、タイムリーで詳細なソルフェージュスクールの事業内容を広報した。コロナ禍による予定変更の知らせ等を随時発信した。

② ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜等の購入

とくに購入はなかった。

③ 「ソルフェージュスクール NEWSLETTER」を発行し、一般に無料配布

4月に3号、7月に4号、11月に5号、そして令和3年1月に6号を発行して、行事の報告及び予告等当スクールの活動をタイムリーに広報した。

④ 独自に発行した ソルフェージュ指導楽譜を教材として使用するのだが、コロナ禍でレッスンが縮小されたこともあり配布部数が例年より少なかった。

シャセバン 1	¥ 560-	(税込)
シャセバン 2	¥ 612-	(税込)
シャセバン 3	¥ 440-	(税込)

⑤ 新しい指導教材の開発・研究

他分野の研究グループ等と連携して、ソルフェージュト新版等の指導教材の作成・検討を継続しているが、コロナ禍によりほとんど進行できなかった。

⑥ ソルフェージュ教育の理念を著した冊子の発行（一般に実費配布）

当財団の設立者たちがソルフェージュ教育の理念について書き残した文書類の整理がコロナ禍のため滞った。

⑦ ホームページの充実

広報力の強いホームページとする。更新間隔の短縮に努め、迅速な情報伝達を強化する。音楽を心の糧にし、音楽で豊かな心を育むことで人間性を高め、日本の音楽文化を進化させていけることを強く訴えるため、内容を濃くすると共にわかりやすくアピール力のある表現となるよう工夫を重ねた。コロナ禍である故に、web 閲覧の機会が増えると考え、より一層内容の充実に努めた。

役員名簿、定款、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程、各事業報告書及び収支計算書・貸借対照表他並びに各事業計画書及び収支予算書を公開した。

⑧ 他のデータシステムとの連携

文部科学省関係法人名鑑及び音楽教育関連データシステム等に登録をして当財団の周知向上を図った。

2. 音楽ホール、練習室の貸与

当財団の所有するホール及びピアノの設置された教室（練習室）を、当財団が使用していない時間に、当財団の事業及び公益目的に合致する者に低廉な対価で貸与し、とくに、音楽学校受験生の使用費用は一般の 2 割引きとして活用を促したかったが、いずれもコロナ禍の影響により貸出件数が少なかった。

*随時受付、費用は別途料金表に公開している。

3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催 一般対象 （無料/有料）

【合奏及び室内楽演奏法】 原則として月 1 回 当法人ホール

室内楽授業を、原則として月 1 回、一般に無料聴講できるように公開し、合奏及び室内楽の演奏法を習得してもらうと同時にソルフェージュ教育の成果を実感してもらう機会を提供する予定だったが、コロナ禍の影響によりほとんど実施できなかった。

【講習会・講演会】

演奏技術のみならず演奏家の逸話、音楽史等々広範囲な内容とし、海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流の場として開催予定だったが、コロナ禍の影響により実施できなかった。

《管理部門》

1. 法人としての諸会議

定款の規定に基づき、評議員会及び理事会等を開催した。ただし、コロナ禍の影響により、通常のカ開催日程の設定ができず、また対面ではなくオンライン会議となった。

【令和2年5月20日 決算監査】

開催方法：オンライン会議

出席等：監事2名出席

【令和2年6月24日 令和2年度 第1回通常理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和1年度事業報告及び決算並びに令和1年度事業報告書等に係わる提出書類の承認決議
2. 評議員会で選任される評議員、理事及び監事の推薦候補（案）の承認決議
3. 令和2年度定時評議員会の招集決議

出席等：理事6名、監事2名出席

【令和2年7月8日 令和2年度 定時評議員会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和1年度事業報告及び決算並びに令和1年度事業報告書等に係わる提出書類の承認決議
2. 当評議員会で任期満了となる評議員、理事及び監事を選任する件

報告事項： 1. 資産の管理運用状況の報告
2. 令和2年度事業計画及び収支予算書等の報告

出席等：評議員6名、監事2名出席、理事6名同席

【令和2年7月8日 令和2年度 臨時理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 理事長、専務理事及び常務理事選定の件
2. コンプライアンス担当理事の選定の件

出席等：理事6名、監事1名出席、1名欠席

【令和3年2月3日 令和2年度 第2回通常理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和2年度補正予算の承認決議
2. 令和3年度事業計画及び収支予算等の承認決議

出席等：理事6名、監事2名出席

2. 公益財団法人の情報公開

当法人のwebサイト、Facebook、チラシ等で法人案内・事業内容・活動状況を公開した。なお、各事業年度の事業報告書及び計算書類、事業計画書及び収支予算書等はwebサイトの法人案内で随時公開している。

3. 業務執行体制の強化

コロナ禍の状況下、7月開催の評議員会において評議員、理事及び監事を慎重に選任し、業務執行体制を充実させた。またコンプライアンスの強化に努めた。

4. 附属明細書について

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属証明書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。